インフォメーション

ITERだより（96）

1. 臨時ITER理事会開催：ITER機構長にピエトロ・バラバスキ博士を任命

2022年5月に前機構長ベルナール・ビゴ氏が逝去したことを受け，ITER理事会は彼の後継者を選出するための調査・採用活動を開始した．2022年9月15日にパリで開催された臨時会合で，ITER理事会は最終候補者との面接を行い，全会一致でピエトロ・バラバスキ博士をITER計画のリーダーとして選出した．

また，理事会は，この過渡期に暫定機構長を務めた多田栄介博士に謝意を表した．

2. ITER機構の新型コロナウイルス対策

2022年10月5日時点におけるフランス国内のコロナ関連情報とITER機構内の感染対策状況について報告する．

フランスにおけるコロナ対策はすでに大きく緩和されており，日常生活が戻りつつある．屋内外でマスクをすることは義務とはなっておらず，スーパーやレストラン等の施設においてマスクをしている人は少ない．公共交通機関使用時のマスク着用義務も5月に撤廃されている．医療機関や高齢者施設でのマスク着用義務も解除さているものの，こうした機関では引き続きマスク着用が強く奨励されている．感染が疑われる場合には，外出を控えて他人との接触を避け，その上で医師の指示に従うとのことである．その場合でも，症状がひどくなければ自宅待機となる．陽性が判明したら（多くは普通の薬局で市販されている検査キットを使用して判定），ワクチン接種済みなら7日間待機，PCR検査または抗原検査で陰性と48時間以内に症状がない場合は5日間の待機期間でよい．このように体調不良時の対応は，各個人の健康管理に委ねている格好である．また，フランス入国の際の水際対策は全廃されており，人の動きも活発化し，筆者（ITER機構駐在）の感覚としてはほぼ日常生活に戻っているように思う．

上述のルールのもと，ITER機構ではオンライン会議がデフォルトであるものの，必要性に応じて対面の打合せも始まり，多くの人が集まる昼時の食堂においても他人との間に距離を大きく取ることやマスク着用の要求はない（マスク着用は奨励）．ただし，手洗い，咳エチケット，可能な場合は素手でのドアの開閉を避ける等の基本的な健康管理には気を付け，健康不安がある場合には出勤を控えるのはもちろん，必要であればマスク着用が推奨されている．また，感染対策の一環としてテレワークも引き続き認められている．ITER通勤バスにおいてもマスク着用の要求はないが，スペースをとって座れない場合などはマスク着用が奨励されている．ビジターについては，コロナの症状がないこと，2週間以内に陽性者との接触がないことを確認するように要求されていることは気を付けておきたい．

このようにITERプロジェクトは日常を取り戻しつつコロナ前の活動に近づいており，プロジェクト成功に向けて引き続き進んでいる．

3. オンラインイベント「ペーパークラフトで核融合炉を作ろう」を開催

2022年8月26日19時よりYouTubeプレミア公開によるオンラインイベント「ペーパークラフトで核融合炉を作ろう」を開催した（**図1**）．

YouTubeプレミア公開は，指定した時間に動画を公開し，発信者と視聴者が同時に視聴しながら，チャットを通して交流できるという特徴がある．今回のイベントは，これまでのイベント開催後に多く寄せられた「自由にチャットをしたい」「リアクションをとりたい」などの要望を反映させたものである．

このイベントでは，核融合の仕組みと共にITER Japan

図1　オンラインイベントバナー．

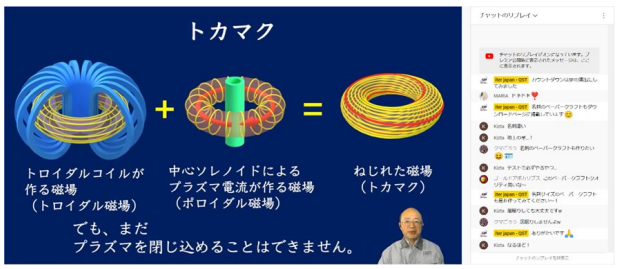

図2　オンラインイベントの様子（チャットを通して参加者と

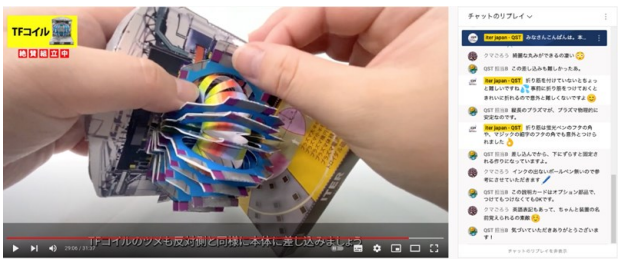

図3　オンラインイベントの様子（ペーパークラフトの作り方紹介）．

が制作したペーパークラフトやイラストを用いながら，核融合炉でプラズマを閉じ込める方法やITERの仕組みについて解説した．（**図2**，**図3**：イベントの様子）

ペーパークラフトをイベントの題材として初めて取り上げたことで，SNS上で「初めて知った」「こんなのあったんだ！」といったコメントをいただくなど，ITER Japanが制作する広報活動用コンテンツを知っていただく機会にもなり，ITER Japan Webサイトの「作ってみよう！ペーパークラフト」のページは通常時と比較し倍以上の方に訪問していただくことができた．

YouTubeプレミア公開を利用することで，視聴者と発信者はもちろん，視聴者同士がコミュニケーションをとることができ，リアルタイムに同じタイミングで笑ったり，つっこみが入るなど，終始，活発なチャットのやり取りが行われ盛り上がりを感じることができた．リアルタイムと終了後のセミナー動画の視聴者を合わせて，5週間で約400人の方にご覧いただいている（10月6日現在）．

核融合・ITERの認知度向上につながるよう，今後もセミナーの企画・実施を進めていきたい．

本件のオンラインイベントの動画は，以下のITER Japan公式YouTubeチャンネルにて公開しているので，参照していただきたい．

イータージャパンYouTubeチャンネル
https://www.youtube.com/c/iterjapanQST
オンラインイベント「ペーパークラフトで核融合炉を作ろう」動画URL
https://youtu.be/PMckfQIse3Q

4. ITER機構職員募集動向とインターンシップ2023募集

2022年8月末現在のITER機構職員は1050名であり，そのうち日本人職員は38名（専門職員34名，支援職員4名）である．職員の上限は1050名となっているが，昨年6月のITER理事会にて上限を越えた120名の増員が承認された．この増員に伴う新規採用のピークは2023年までであり，それ以降の職員公募は，退職に伴う空きポストの補充，建設から運転への移行に伴う人員再配置による公募など，少数になると予想される．量子科学技術研究開発機構（以下，量研）では，応募書類のアドバイスや添削，さらに書類選考を通過した応募者には，面接試験のトレーニングを行っている．さらに，オンライン説明会を開催し，ITER機構職員により，応募動機，業務内容（やりがい，業務ポイント，一日の流れ），英語での業務などについて説明した．今後もITER機構職員に実際のITER機構での業務の説明などを計画しているので，是非参加していただきたい．

図4　インターン生を囲んで（2019年）．

2023年のITER機構インターンシップの公募は11月末頃から行われる．公募される70～120程度のテーマの中から5つまでのテーマに応募することができる．今回の公募は，カテゴリーS（博士課程の学生）にも手当が支給されること，カテゴリーA（修士課程の最終学年）の応募資格に変更が行われるなど，応募要領が変更されるので，公募情報に注意していただきたい．日本からは2018年に5名，2019年に6名，2020年に2名，さらに，2022年には4名のインターンがITER機構職員として活動した（**図4**）．量研ではインターンの公募支援を行っているので，問い合わせていただきたい．

ITER機構職員公募案内
https://www.fusion.qst.go.jp/ITER/staff/jobs.html

（量子科学技術研究開発機構　量子エネルギー部門）